

### 町民のみならず

これまで産廃反対運動に取り組んできた米田ひろき氏が日本共産党から町政へ挑むことを表明しました。

表明後、「産廃反対の運動団体は共産党だ」、新聞折り込みにも「多くの場合、反対運動の主導権は共産党が握っている」等のビラも入るなど、政党支持や立場の違いをことさらあおり、住民の中に対立を持ち込み運動を分断させることを目的に町内で意図的に広められています。

こうした問題に対する日本共産党上郡支部の見解をご紹介します。

#### 産廃反対の一致点を大切に頑張ります

この間、米田氏は、住民の皆さんと力合わせて産廃反対運動に取り組んできました。米田氏は産廃反対運動の中に「共産党の活動や方針を持ち込まない」。この姿勢を厳格に貫いてきました。それは産廃反対運動をしている人の中にはいろいろな考えの人がいるからです。支持する政党が違う人もいます。それぞれ思想・信条、立場の違いもあります。しかし、そうした違いを乗り越えて「産廃反対の一致点で協力し、みんなの知恵と力を結集して産廃処分場を阻止する。それが一番の力になる」というのが米田氏と、日本共産党の一貫した立場です。

#### 目的は対立と分断を持ち込み、運動をつぶすこと

共産党員やその支持者が運動に参加するだけで「産廃反対運動は共産党だ」と、言うのは全く理屈が通りません。職場、地域、学園などで活躍している共産党議員や党員は大勢いますが、そのことでその団体が「共産党だ」というのはあまりにも無理があります。そうしたことを意図的に広める狙いは運動に対立と分断を持ち込み反対運動を潰すことを目的とし、そのことで利を得る者も明らかではないでしょうか。

#### 違いや多様性が尊重され一人一人が輝く上郡町を

上郡町は産廃問題を契機に、大きな転換点に立っています。

産廃処分場設置の可否を問う住民投票条例案を議会が否決し、住民の声が届かない。

「政党支持や立場の違い」をことさらあおり、住民に対立と分断を持ち込む。これを認めてしまえば「人との違い」や多様性は否定され、少数者は徹底的に排除される窮屈でギスギスした監視社会のような町になってしまおうのではないのでしょうか。

世界の合言葉は「ジェンダー平等と、ダイバシティ&インクルージョン」。これは、すべての男女格差なくし、それぞれの違いや多様性が尊重される社会こそが真の力を発揮するという意味です。これが世界の大きな潮流です。

私、米田ひろきは、産廃反対の一致点を大切に住民の皆さんと力合わせてとことん頑張ります！また、一人ひとりの個性と違いや多様性が尊重される風通しの良い町政・町議会を実現するために頑張ります！

米田ひろき